

【お知らせ】本年7月1日から、化学物質取扱業務従事者に係る特殊健康診断の健診項目等が一部変わります

特殊健診及び健康管理手帳制度における健康診断のうち、化学物質を取り扱う有害業務に係る健康診断について、労働安全衛生規則（安衛則）、有機溶剤中毒予防規則（有機則）、鉛中毒予防規則（鉛則）、四アルキル鉛中毒予防規則（四鉛則）、特定化学物質障害予防規則（特化則）が一部改正され、本年7月1日から施行されます。

＜改正内容＞

- (1) 四アルキル鉛について、健診項目及び健診頻度を鉛に係るものと同様とする。(四鉛則関係)
(2) 尿路系に腫瘍を発生させるリスクが高い物質について、健診項目に「尿中の潜血検査」等を追加する。(特化則関係)
(3) 特化則第2条第1項第3号の3に規定する特別有機溶剤等について、健診項目に「腹部の超音波による検査」等を追加する。(特化則関係)
(4) カドミウムについて、健診項目に「血液中のカドミウムの量の測定」等を追加する。(特化則関係)
(5) その他、肝機能検査、腎機能検査等の見直しや、健診項目への「作業条件の簡易な調査」の追加等を行う。(有機則、鉛則、四鉛則及び特化則関係)
(6) (2)に合わせて、健康管理手帳制度における健診項目の見直しを行う。(安衛則関係)
(7) その他、所要の規定の整備を行う。

*改正内容の詳細につきましては、当協会ホームページ「新着情報」をご覧ください。
http://www.shsa.net/または「静岡県予防医学協会」



第54回予防医学技術研究会議で当協会職員2名が取組事例を口頭発表

(公財) 予防医学事業中央会等が主催する「第54回予防医学技術研究会議」が、本年2月27日・28日岩手県盛岡市で「新たなる予防医学技術の向上を目指して」をテーマに開催され、健診検査に関わる医師・臨床検査技師・保健師・看護師など約350名が参加した。

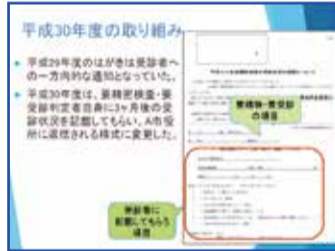
当協会からは二橋咲子職員と佐藤恭子職員が出席し、2つの事例について各々代表して口頭発表を行った。

＜発表内容＞

①「検診受診後の精密検査受診率を高める取り組み」

浜松健診センター保健指導課 二橋咲子職員

現在、がん健診受診後の精密検査受診率を高めるためにA市と連携して受診勧奨を行っている。各年度の精密検査受診率を比較し考察したところ、はがきを送付した2017年度よりも受診状況記入用紙を送付した2018年度で受診率が上昇していた。一方向的なはがきではなく、受診状況の報告を求めたことが受診者の意識の向上に繋がった可能性があり、今後もより効果的な受診勧奨方法を検討していきたいことを報告した。



②「新生児マススクリーニングにおける採血ろ紙の状態改善に向けた取り組み」

静岡事務所健診検査担当 佐藤恭子職員

当会では静岡県全体の新生児マススクリーニングを行っており、2013年10月からはタンデムマススクリーニングが開始された。タンデムマススクリーニングの対象疾患は早期に発見し、治療を開始しなければ障害が残ることや死に至ることもあり、高い精度が求められる。検査精度を向上させるため、2014年より採血ろ紙状態改善に向けた啓発活動を行い、その結果改善が認められたのでその経緯について報告した。



本年4月に最新モデルの生化学自動分析装置を導入(藤枝健診センター)

生化学検査は、血液に含まれるコレステロール、タンパク質、脂質、糖、酵素などの成分を測定し、身体の状態をチェックする重要な検査のひとつです。

現在、藤枝健診センター健診検査課では、生化学自動分析装置を用い、生化学項目の肝機能 (AST、ALT、γ-GT 他)、腎機能 (クレアチニン、尿素窒素)、脂質 (総コレステロール、中性脂肪他)、糖尿病 (血糖) など約23項目について、人間ドック及び所内健診の検体検査を行っています。昨年度は、人間ドックで13,664件、所内健診で12,329件、総数25,993件の検査を実施しました。

本年4月には、今までの1.5倍の処理能力と高性能を兼ね備えた最新モデルの生化学自動分析装置を導入し、検査の迅速化を図っています。



静岡県予防医学協会 総合健診センター

ヘルスポートだより

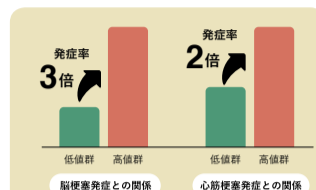
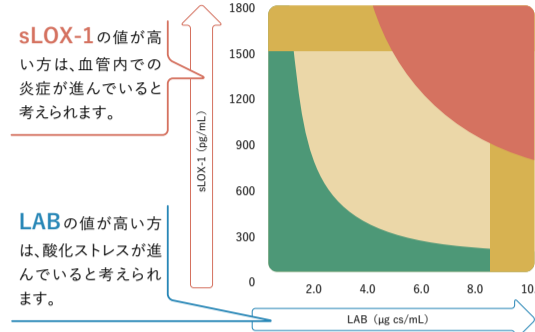
LOX-index®検査 (ロックスインデックス) について

前回の検査の案内に続き、今回は、「結果報告書の見方」についてご案内します。

報告書の見方

縦軸のsLOX-1の値と横軸のLAB (超悪玉コレステロール) の値をかけたものがLOX-index®の値です。LOX-index®の値をもとに高リスク、中高リスク、中リスク、低リスクの4段階でリスクを評価します。

脳梗塞・心筋梗塞発症リスク



LOX-index®の値が高いと…

日本国内で行われた追跡研究の結果、LOX-index®の値が高いと将来の脳梗塞発症率は約3倍、心筋梗塞発症率は約2倍となることがわかっています。LOX-index®値が高い方は、生活習慣を改善し、予防対策に取り組ましましょう。

※参考: Nobutaka Inoue, et al. LOX-index, a Novel Predictive Biochemical Marker for Coronary Heart Disease and Stroke, Clinical Chemistry 56:4 550-558 (2010)

※リウマチ、妊娠中、出産後、熱がある場合は、検査数値が高くなる可能性があります。
※脂質異常症治療薬、抗血小板薬、降圧薬を服用されている場合は、検査数値が低くなる可能性があります。(本検査は薬を服用されている現状のリスクを評価しています)

LOX-index®の値が高リスクでした。今後どういった検査を受けたいですか?

- 先生: 中高・高リスクの方には二次検査をおすすめします。既に動脈硬化が進行している可能性が高いため、血管の硬さやつまりを調べる検査を受け、状態を確認しましょう。
先生: 二次検査の結果をもとに、更に精密検査を行うのか、治療を行うべきなのか、医師の診断を受けることをおすすめします。

二次検査

- 頸動脈エコー検査: 超音波の発信装置を首にあて、動脈硬化の有無や程度を調べる検査です。
FMD検査: 動脈硬化の前段階で起こる内皮障害の度合いを測定し、早期の動脈硬化を調べる検査です。
CAVI検査、ABI/PWV検査: 動脈の硬さ、つまりを検査します。手足の血圧比や脈波を検査し、動脈硬化の程度を調べる検査です。

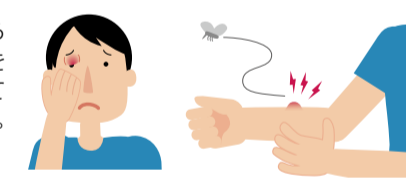
精密検査

- MRI/MRA検査: 電磁波を使用し、脳・心臓の断面像、血管の状態を映像化する検査です。
心臓核医学検査: 放射線量をコンピューター処理して画像化し、心臓の血液の流れを映し出す検査です。
心臓CT検査 (コンピュータ断層撮影): X線とコンピューターを使い、心臓の状態を調べる検査です。
心臓カテーテル検査: 体内にカテーテルを通し、造影剤を入れてX線撮影を行い、血管の状態を調べる検査です。
※医療機関によっては、実施していない検査もございます。

sLOX-1が高かった方

sLOX-1の値が高い方は、血管の炎症が進んでいる傾向があります

炎症ってなに?
炎症とは外傷ややけど、細菌の侵入といった外からの刺激に対して、生体が起こる防御的反応のことを指します。「ものもらいができる」「虫刺されによって皮膚が腫れる」などもいわゆる炎症反応の一つです。血管でも同様にこうした炎症反応が発生します。



血管で炎症状態が進んでいくと…
血管壁が硬くなる: 血管壁が硬くなることで、血管のしなやかさが失われます。血管のしなやかさが失われると、血液の流れが悪くなり、血圧の上昇等につながります。
血管が狭くなる: 血管が狭くなることで、血液の流れが悪くなり、血栓(血の塊)ができやすくなります。

さまざまな炎症を表す sLOX-1
sLOX-1は血管炎症だけでなく、体内の炎症を表す指標として研究されています。そのため、リウマチ等の膠原病やNASH/NAFLD(肝臓に脂肪が多くなった状態)、睡眠時無呼吸症候群といった体内炎症を引き起こす疾患をお持ちの方でsLOX-1が高い傾向があることも報告されています。

LABが高かった方

LABの値が高い方は、体内の酸化ストレスが高い傾向があります

酸化ストレスについて
私たちが呼吸によって取り入れる酸素は生きていく上で必要不可欠です。しかし、外的要因によって酸素の一部は「活性酸素」へと変化し、細胞や遺伝子を傷つけ劣化させる物質となります。この活性酸素が過剰に作られて処理しきれなくなった状態が酸化ストレスが高い状態とされています。



酸化ストレスが起こる主な原因
たばこ、紫外線、放射線、大気汚染、酸化された物質の摂取等、様々な原因があります。

活性酸素の量と抗酸化力のバランスが重要
老化を進める悪者と言われる活性酸素ですが、実は「カラダの免疫機能の手助け」や、「感染予防」に役立っている側面もあり、必ずしも悪者ではありません。しかし、活性酸素の量が体が本来持つ抗酸化力を上回ると、酸化ストレスが高まり、様々な病気を引き起こすのです。酸化ストレスが高い状態が続くと、動脈硬化(脳梗塞・心筋梗塞)だけでなく、がんやアルツハイマー型認知症、糖尿病といった様々な病気の発症リスクが高まると言われています。

掲載資料提供元: NKメディコ株式会社様より